

### 第3章 外部評価委員会の講評



## 1. 外部評価委員会の講評

外部評価委員会における講評は以下のとおりである。

なお、審議の詳細については本書の参考資料－1に議事録を掲載している。

### 平成27年度 土木研究所外部評価委員会 全体講評

#### 【各研究課題の位置付けとフォローアップ】

- ・ 4つの分科会で今中期計画全体をどのように実現するのか、各分科会の対象領域において各プロジェクト研究がどのように構成されているのか、さらにプロジェクト研究に対して各個別課題がどのような役割を果たしているのかについて示して頂きたい。それらが、研究の技術移転や政策に貢献する仕組みにつながることを期待する。政策との関連性については、研究者だけでなく全体で議論し示していくことが必要である。
- ・ 得られた成果や技術を追跡して頂きたい。追跡評価では、成果の普及や論文数の増加だけではなく、研究期間終了時に残った課題や実用化に際し出てきた懸案に対するその後の取り組みを評価できるとよい。成果の早期普及のため、早々にとりまとめたマニュアルについては、普遍性等を見極めて後継の研究に位置付けてほしい。

#### 【他機関との連携・分担】

- ・ 他機関の研究との関連性について意識して取り組んでほしい。具体的には、土研と国総研との関係、大学との関係、分野によっては民間企業との関係等、他機関とどのように連携・分担しているかについて明確にしてほしい。

#### 【海外への展開】

- ・ 海外協力・支援が進んできているが、技術移転にとどまることなく、国際規格やISO等に反映されることが重要である。

## 2. 土木研究所の対応

外部評価委員会本委員会および各分科会で頂いた講評を踏まえ、今後も実施計画に従って鋭意研究を進め、社会的ニーズに的確かつ迅速に対応した研究成果を出し、各研究課題の目標達成に向けて努力していきたい。また、プロジェクト研究に対する各個別課題の役割、各プロジェクト研究の成果の達成と分科会全体の目標との関係、さらには、研究成果がより効果的に現場へ適用されるための方策や、政策と関連した基準類への反映方法等について検討を進めたい。

一方、得られた成果や技術を追跡し、今後の研究課題に反映していく仕組みについては本年度中に検討し、次期中長期計画から実施できるよう取り組んでいきたい。また、成果のマニュアル化にあたっては、一般化の程度に十分留意し、その程度をマニュアルに明確に示すとともに、さらに一般化を進める観点から後継の研究課題に引き継いでいきたい。他機関との連携・分担については、次期中長期計画策定において、研究開発成果の最大化に向けて、さらに連携・分担の可能性を検討するとともに、研究開発成果の現場への適用がより早期に図られるよう整備局等との連携も進めてまいりたい。さらに、国際貢献においては、技術移転だけでなく我が国の国際競争力を向上させる観点から、引き続き国際標準化への取り組みを推進していきたい。

